

都市再生整備計画 事後評価シート
旧草津川周辺地区

平成29年3月

滋賀県草津市

様式2-1 評価結果のまとめ

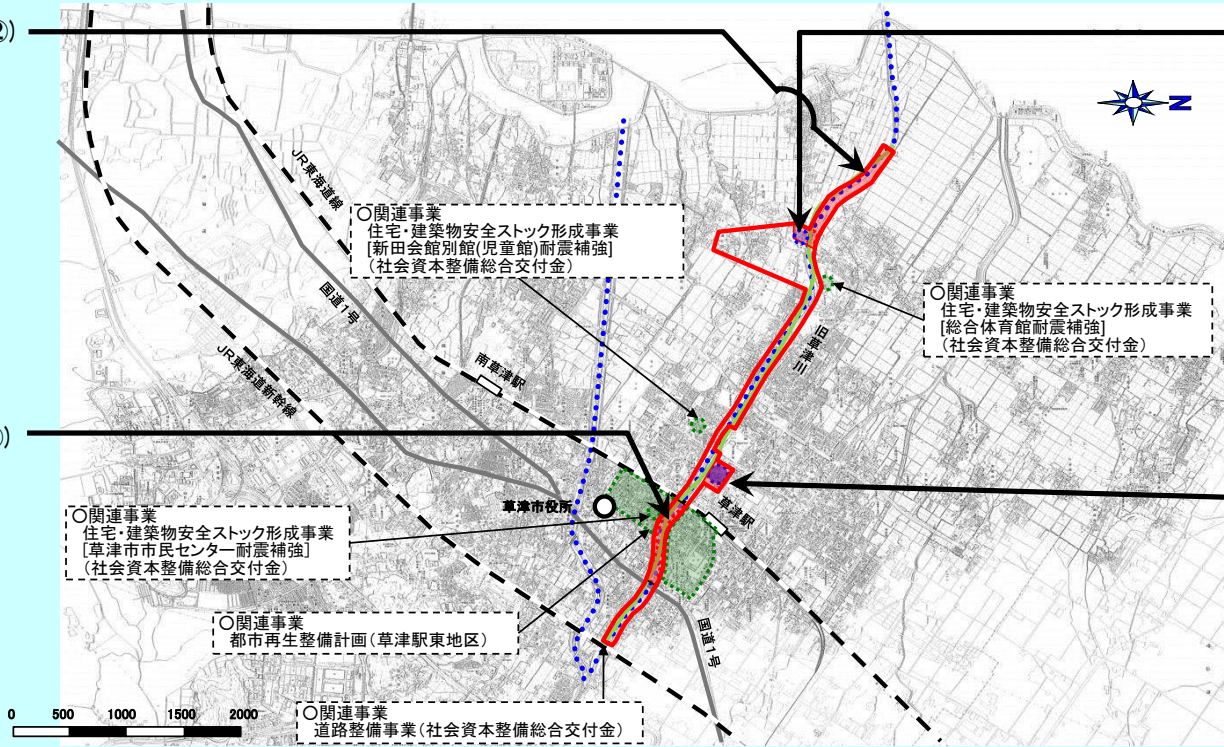
都道府県名	滋賀県	市町村名	草津市	地区名	旧草津川周辺地区			面積	81.4ha			
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	6,208百万円	国費率	0.36					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 地域生活基盤施設(旧草津川跡地(区間②)、(区間⑤)、(区間⑥)) 高次都市施設(地域交流センター)									
		提案事業	地域創造支援事業(学校給食センター、野村団地解体事業)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(旧草津川跡地(区間⑥))	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	高次都市施設(地域交流センター)	・区画⑥整備に影響する国道1号の草津川トンネルの撤去工事の進捗が遅れたため事業を削除(次期計画に計上予定) ・地元調整が不調となり、事業の実施が困難となったため事業を削除			・区画⑥の削除に伴い、指標(旧草津川周辺の市民1人当たりの避難スペース)の対象エリアを縮小したため、従前値を変更(1.53⇒2.01) ・地域交流センターの整備に直接的に影響する指標(地域交流センターの利用件数)を削除					
	新たに追加した事業	基幹事業	なし	-			-					
		提案事業	なし	-			-					
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
	変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	旧草津川に接続する道路の歩行者数	人/10時間	842	H20	1,180	H27	1,560	○	あり	・駅周辺のマンション建設や商業施設開業等の外的要因と相乗して、指標が目標値を上回ったと考えられる。 ・市民主体のワークショップや、旧草津川跡地を利用した活動の社会実験、フォーラムの開催などにより、地域住民が主体的に跡地を活用していこうという機運の高まりや、跡地に対する愛着が醸成された。	平成30年2月
	指標2	草津宿本陣の入館者数	人/年	18,216	H21	22,400	H27	19,096	△	あり	・草津宿本陣の楽座館の開館(H26.4月)により、落語や展示会等の独自の取り組みが積極的に行なわれたものの、目標の達成には至らなかった。	平成30年2月
指標3	旧草津川周辺の市民1人当たりの避難スペース	m ² /人	2.01	H23	3.30	H27	1.68	×	あり	・旧草津川跡地事業(区間⑤)が未供用のため避難スペースの面積が増加しなかった。 ・災害時の炊き出し拠点である学校給食センターの改築や、野村団地の解体により、災害に強い安全・安心なまちづくりの推進が図られた。	平成30年2月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1					モニタリング	評価値					
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	草津川跡地整備事業ワークショップ			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 草津川跡地整備プロジェクトに関わる市民やワークショップ参加者等との連携を密にしながら、旧草津川跡地の魅力を高める様々な取組について、今後も引き続き支援する。			
	持続的なまちづくり体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

旧草津川周辺地区(滋賀県草津市) 都市再生整備計画事業の成果概要

	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	従前値	目標値
大目標 草津の特色を活かしたにぎわいのある都市活動とゆとり・やすらぎのある生活環境の充実	旧草津川に接続する道路の歩行者数	人/10時間	842	H20	1,180	H27	1,560	H27
目標1 地域性を活かした交流拠点の発展と賑わい空間の創出	草津宿本陣の入館者数	人/年	18,216	H21	22,400	H27	19,096	H27
目標2 災害に強い安全・安心なまちづくりの推進	旧草津川周辺の市民1人当たりの避難スペース	m ² /人	2.01	H23	3.30	H27	1.68	H27

①旧草津川跡地整備事業(区間②) 基幹事業(地域生活基盤施設)



③学校給食センター改築事業 提案事業(地域創造支援事業)



②旧草津川跡地整備事業(区間⑤)



④野村団地解体事業



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 旧草津川の未利用地の整備により、一次避難地の充実、安全に避難できる空間の形成に寄与し、東西の防災軸としての機能が高まった。 野村団地の解体により、災害、犯罪、景観面での悪影響が解消された。 学校給食センターの整備により、厨房設備機器の充実化やHACCP(ハサップ)(危害分析重要管理点)を取り入れることで、より安全で安心な給食を提供することができたほか、災害時にライフラインが途絶えた状況でも、迅速に対応ができる炊出し拠点が整い、地域の防災機能が高まった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 旧草津川跡地の整備を継続して進めることで、まちなかから琵琶湖までの緑軸の充実や、東西の防災軸のさらなる機能充実を図る。 草津駅周辺、旧草津川跡地、草津宿本陣周辺における一体的なまちの賑わいを創出するとともに、景観の一助となるガーデニングによるまちづくりを市民協働で展開する。 旧草津川跡地の整備と併せて、災害時の避難路、緊急輸送路等を確保するとともに、周辺に位置する避難所や防災ステーションと連携し、防災機能を強化する。 地域の防災力の向上に向けて、市民・学校・自治会等の防災意識の向上を図る。